



### 仕事を面白くする秘訣

コロナ禍からなかなか解放されない毎日ですが、お変わりありませんか。こちらでは今のところクラスターの発生もなく安堵しております。年度末が近づいているため、人事異動や事業計画の検討等慌ただしい日々を過ごしています。そんな中で、榎本栄次先生(牧師。講演当時は敬和学園校長)の講演文が目に入りました。笑わされたり励まされたりする内容なので、(十七年前にも掲載したのですが)一部を加筆修正してお知らせすることにしました。(長澤道子)

皆さん方は、福祉の仕事をするにあたって、砂をかむような仕事ではなく、面白い仕事をしたいと願っていられるでしょう。そして、一般に、面白いとは、心地よい、

発行  
 社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園  
 〒421-0412 静岡県牧之原市  
 坂部 2151 番地 2  
 TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157  
 E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp  
 http://www.yamabatogakuen.jp/

機関誌代は無料です。



楽しい、喜びがある、といったふうに受けとめられていますが、面白いとは、英語で表現するとワンダーフルになります。ワンダーとは、不思議、分からない、の意味。フルは、いっぱいの意味ですね。だから、あーっと、不思議で驚くようなことがいっぱいあるのが、面白いわけです。お上げのような難問や人間関係にぶっつかり、

辛かったり苦しかったりして、分からないことだらけの中でも、「やつたるぞ」と取り組んでいくとき、正解のないところに挑戦する面白さを味わえるわけです。あーっと驚くようなワンダーフルの世界が見えるようになるわけです。

私がA学園の講師をしていた時、学園は荒れていました。聖書の授業で教室に入ると、番長のNくんがコーラを飲みながら、ジャンジャンレコードをかけています。

「Nくん、何してんだ、授業始まつてるんやから、早くしなさい」

「うるせえ。オレなんかキリスト教関係ねえ。オレんちは仏教だ」

「キリスト教関係なくてもナ、お前、この学校に来たんやから、聖書の授業うけにヤアカンのや」

「うるせえ」

「そんなこと言うんやったら、この授業は、欠席だぞ」

「チェツ、欠席か。欠席ならイイ。

暴れてやる」とか言って、ジャンジャン暴れ始め、四十五人クラス

の、他の生徒も騒ぎ出しました。

「Nくん、そんなことをするんなら、単位、出さんぞ。単位が出んぞ、お前、卒業できんぞ」

「ちきしよう、スコップで、ぶんなくってやる」

彼は本当にやりかねない人間です。背も高く、ごつつい体格です。私の横にいた生徒が、「先生、おっかなくないの?」というので、「そりゃあ、おっかないよ。でも、わしはサラリーもろうてんやから、こいつに勉強教えんわけにはイカン。おっかなくても、ゆずるわけにはいかんのや」というと、「うるせええ!」の大声。まったく、砂をかむような授業になりました。

皆はわいわい騒ぐし、聞いていません。授業を一刻も早く終えたいと思いました。自分の才能のなさと、自分のリーダーシップのなさが分かり、とても辛かったですね。

次の週、そのクラスにまた行かねばならないので、いつものジャンジ姿をやめ、白いワイシャツにネクタイ、背広を着用して出かけました。教室に入ると、教卓にはゴミが山積み。その上にチョコクスの粉や牛乳がかけられ、黒板は落書きだらけ。中央に私の顔を風刺し、「すだれハゲ」と書いています。私は、そのとき、一瞬、教師を辞めて帰ろうかと思いました。まっ

たく辛い。自分が歓迎されるなら、一生懸命するけれども、バカにされ、無能だとか言われている。聖書の授業に対しても無関心。Nに對して、一体、どうすべきか。私は、まず、黙ってゆつくり、黒板を消すことから始めました。ゆつくりゆつくり、時間をかけて、隅から隅まで、ていねいに消しました。シャツは忽ち汚れましたが、私は大げさなくらい、丁寧に黙って黒板を拭きました。黒板の次は、教卓です。山積みのゴミを丁寧にとり除き、雑巾をもつてきて、時間をかけて丁寧に教卓を拭きました。生徒は皆、黙って、手伝いもしないで見えています。やがて教卓もきれいになった時、一番前に座っていたNが、こういったんです、「そこに、一つ、ゴミ落ちてる」。

手前、突つ張っているが、彼なりに、そこに一つ落ちてるといふ表現で、私に協力したんだと。それで私は「おおきによ(ありがとう)」と言つて、ゴミを拾いました。そのときです。彼の顔色が変わりました。そして、その日の授業が、実に静かにできたんです。Nはその後「先生、聖書をくれ」と言い、次の週、仲間と共に礼拝に来ました。うれしかったですね。私がそのことを、職員室で話すと、先生方は冷ややかで、「教会に来たぐらいで、そんなに喜ぶ牧師はお人よしやなあ」といった雰囲気でした。とにかく私はうれしくて、得意になつてこのことを話したのですが、Nは聞いて、カチンときました。彼は、傷つけられ、やけくそになり、帰りに公園でシンナーを吸いました。そして警察に捕まり、学校の大问题になり、退学というところになつたんです。職員室では、「それみたことか。教会に行つた位で、変わる訳がない。あんな奴は早く取り除くしかないんだよ。情かけていたら、みんな、駄目になる」といった見方でした。

思いながら、帰りに、Nの家に寄ると、彼はふてくされて、「あのセントリー(教師)をぶん殴つて、辞めてやる」とか言っていました。「そうか。けど、ぶん殴つて、お前の人生、開けるか?」と言う。「開けなくてもいいんだ」と言います。私は、彼に、「ぶん殴つても、ぶん殴らなくても、お前は退学だろうが、ここで殴つたら、お前の人生は本当に駄目になるぞ。自分が悪かつたと手紙を書け。どうか復学させてくれと頼め。それでも退学だろうが、手紙を書くことによって、お前の新しい人生が必ず始まる」と説得しました。

Nは、その気になつて、担任と校長と、生徒会に、手紙を書きました。「僕が悪かつた。もう一回だけチャンスをください」と書いてたんですね。もちろん、職員会議で退学処分は決定されていますから、変わるはずはありません。しかし、彼の手紙はクラスを動かし、担任の心をも動かしました。担任は、「もう一回だけチャンスを与えてほしい。彼に、自分の教師生命をかける」とまで言い始めたのです。クラスの仲間達も、「自分達も悪かつた。自分達も一緒に悪かつた。自分達も一緒に悪かつた。自分を改善することをしてほしい」とから、Nを復学させてほしい」と言い出し、「ベルがなつたら席に着く。飲酒喫煙はしない。暴力は振るわない。授業はサボらない」という決議文をクラスで決め、生徒会に提出。生徒会はこれを採択し、結局、Nの復学が認められるという不思議な結果に至つたんです。そのとき私は、改めて思いました。苦勞の多い、とんでもない人間関係の中に、実は、素晴らしいものが隠されていると。

かつて私は、Nによつて、ローラの車のドアをペチャンコにされたとき、「ようし、やつたるかい!」と決意したのでしたが、それは、仕返ししてやろうという意味ではなく、教師として彼とまともに取り組み、Nを何とかしてやろうという意味です。問題から逃げず、正面から、「やつたるかい!」と困難に向き合う。それが仕事を面白くする秘訣であり、自分が主人公になる生き方でもあるのです。

## 弥生さんの上海旅行

浅井和子

二〇二二年の夏、次女と孫の住む上海へ行ってみようと思いい立つた。中国へ入るには、コロナ関連の「健康コード」の申請が必要。それも、出発二日前と二四時間以内の、二度の検査結果を添える必要がある。娘から「石器時代の人」と評される私は、老眼でもあり、「健康コード」のスマホ申請は苦手なので、隣家の長女夫婦に何かと頼ることになった。空港でも、QRコードの読み取り等、彼に助けられて、やつと搭乗できた。

上海行の飛行機は、僅か二時間半で浦東国際空港に到着。ここでもQRコードの読み取りや細かい情報入力が必要だったが、娘の助言に従って「助けて下さい」という中国語を覚えておいたおかげで、日本の大学に留学中の、親切な中国人青年に助けられた。

その後はホテルで隔離生活。8日目に解放され、娘や孫と感激の対面を果たせた。が、私と接した家族は、その後3日間自宅監禁となった。

食事のことを案じる私に対して娘から、「上海では、当日の夕食の食材も、会社帰りの地下鉄の中でスマホで注文すれば、帰宅前に自宅前に

デリバリーされるんです。買物なんて行かなくていいんですよ、弥生さん」と言われた。「弥生さんか。まあ、縄文さんと呼ばれるよりはマシか」と思ったのだった。

上海では、コンビニに入るにも地下鉄に乗るにも、PCR検査陰性を示す健康コードを見せねばならない。私も、真つ先に健康コードを携帯に登録した。また当地では少なくとも三日に一度は、無料のPCR検査を受ける。地下鉄駅近くの建物の一角等、あちこちで検査し、結果がコードに表示される。

上海の人口は約二千五百万人。幼児や病人等一人で外出しない人を除く約二千万人が携帯を所持し、各自の携帯にはPCR検査結果が表示されている。(接触アプリCOCCOAを開発しようとしてウヤムヤになった日本とは大違い！)

家族解禁となった日、娘と共に中国語の学校へ。娘からは、バスの乗り方、降車場所、学校の建物への入り方(携帯の健康コードのスクリーンを押しピルのQRコードをスキャンし、そのQRコードが緑になれば入る)、地下鉄の乗り方等々、い

ろいろ学んだ。

上海市内のバス路線はよく整備されていて、地下鉄と同様、アプリで行先を入力すれば、何番のバスか、いつ来るか等、すぐ表示される。

翌日から、私は、中国語の学校へ、行きはバス、帰りは地下鉄を使って、一人で通学した。QRコードをスキャンし、緑の健康コードを示し、スクールの建物に入ったり、地下鉄に乗ったりして、あたかも長年住んでいる上海人の振りをした。(弥生さんが、飛鳥さんぐらいまで進化した?…)

ところで、QRコードを読み込んだり健康コードが緑色になったりするのには、全てネット接続があるからだが、ある時、突然、私の携帯のネット接続が不能になり、私はパニックになった。学校の建物へ入る時だったが、私が中国語の分らない日本人だとわかると、近所のお巡りさんがやってきて、(本来なら建物に入れないのに)十八階の学校まで一緒に来てくれて、WiFiを使って、私の緑の健康コードを確認してくれた。

親切な、優しいお巡りさんだった。以来、常に携帯の充電式WiFiを持参することにした。

上海のタクシーは、便利で合理的で価格も安い。「百度」等のアプリを使って、現在地を示し行先を入力すると、候補タクシーが料金と共に幾つか表示され、適当なのを選ぶと、

そのタクシーがやってくる。料金は当初約束した金額のまま、途中の事情で変化しない。

娘の住んでいる街は住宅街で、道路は三車線、歩道には街路樹が茂り、三車線の一番端は、自転車とオートバイ専用で、オートバイはスートと走り、騒音がない。電気自動車も普及している。歩道の角にはレンタル自転車があり、乗りたい人はQRコードを読み込み、好きな所まで乗れる。娘もよく利用すること。

この他、この地で様々なものを見て思ったことは、わずか二時間半で行ける所に、相当進化した、中国の街が存在するという事。上海は、もはや二十年前の上海ではない。日本よりずっとIT化し進化した都市、生活は合理的で、緑あふれるきれいな街なのだ。

中国が、今後も今までのペースで発展するわけではないにしても、日本の二十六倍もの領土、十四億人の国民を有する大国である。この国には、日本企業が千三百社ばかり進出し、十七万人余りの日本人が駐在している。地理的に近く、人的にも経済的にもコミットしている中国に対して、日本はどうして対峙することができようか。

国の防衛力はしっかりと保持しつつも、なんとしても中国と平和的に共存せねばならない。

### 短歌こそ我が人生

半田 豊

私は二十三歳で短歌創作を始め、五十年間継続してきました。さて、新聞に投稿して秀逸に選ばれた短歌の中から、次の二首を紹介しします。

よみうり短歌 渡 英子 選

この夏を迎えし天地の喜びの  
光のごとく向日葵咲きぬ

(評) コロナ禍に入って三度目の夏、露軍のウクライナ侵攻や天変地異に心が晴れない日々が続く。それでも「この夏」の「天地の喜びの光」のように咲く向日葵(ひまわり)に力を貰う作者を見習いたい。

(自註) この一首は、ウォーキングで県立吉田公園に行き、太陽に向かって明るく力強く咲き誇る向日葵を見つめ、感動して作りました。そして、私は暗い世相や困難にめげず希望と喜びを感じつつ生きていこうとする思いをこめて、素朴な比喻を使い生き生きと表現しました。そのため、皆さんの中にも、共感してくださる方が多いのではないのでしょうか。

「あかあかやあかあかあかあか  
あかあかや」

子らは笑ひぬ明恵の歌に

(評) 鎌倉時代の華厳宗の僧侶明恵(みょうえ)上人(しょうにん)の歌の下の二句は「あかあかあかあかあかあかや月」と続く。夜空に輝く月の明るさを無心に詠んだ歌を笑う子供たち。しかし、この歌は子供心に残るに違いない。

(自註) この一首は、短歌の学習の最初に朗読して聞かせました。子供たちは、おもしろく感じて笑ってくれるだろう。そして短歌を親しく感じてくれるだろう。私の予想と願いどおり子供たちがみんな笑ったので、私も楽しくうれしく感じました。その気持ちを率直に表現したのです。

これらの二首は、活動や体験をすることによって感動し、自分自身の心の動きを深く丹念に見つめ、素直に表現していることが共通しています。皆さんも明るく楽しい短歌を作ってみませんか。きっと心と人生がますます生き生きと深く豊かになるものと思います。

(レタスクラブ利用者)

### 法人全体の防災訓練

ワークセンターくら 大須賀 貴生

十一月二十五日に法人全体で行う防災訓練がありました。その日の十三時三十分には震度六強の地震が発生したという想定で、各施設が対策を考へ訓練を実施。私のいるあつまりーナでは海に近い立地ということもあり、地震発生後、津波想定での避難訓練を考えました。

あつまりーナ自体は平屋の建物です。次の三つについて重点的に訓練する事にしました。

- ①全員で隣の福祉施設の二階に階段を使って避難する。
- ②ドライブ中に地震が発生した場合、近くの津波避難タワーに避難する。
- ③非常食を食食してみる。

当日訓練の時間になり地震が発生すると、ご利用者の皆さんはいつものように机の下に隠れ、揺れが収まったあと、一次避難所まで避難することが出来ました。そこから津波が来ることを想定し、隣の福祉施設へ移動しました。しかし建物の玄関で渋滞が起こっていました。

原因は、みんな律儀に消毒と検温をしてから入館していたからでした。今回はしなくてもいいことを伝え、階段を上って二階へ避難しました。車椅子のご利用者さんも救急担架を使用し職員二名で階段を上りま

したが、ご本人が階段の方を向いたままだったので、ご利用者さんの足が階段に当たりそうになってしまいうことがありました。

ドライブ組の避難は初めて避難タワーに登る訓練でしたが、なぜ避難タワーに登るのかわからなかったようでした。「今日は法人の訓練で、携帯電話のアラームも鳴らないんだよ。」と説明し、登って頂きました。また施設長への避難場所の連絡は問題なく行えました。

最後は昼食に防災食のカップラーメンと羊羹を食食し、最近の防災食のクオリティの高さを実感しました。今回の訓練で気付いたことは、ドライブ中の避難については普段から避難タワーがどこにあるのかを意識しておいた方がいいということです。それからもう一つは、以前防災の研修で講師の方から学んだことにもなりますが、災害で起きそうなことをいくつか想定し、その訓練を実際に行ってみることはとても勉強になるということでした。例えば、送迎中に大きな地震が起こったらどうしたらいいか、スタッフの人数が少ない時はどう避難したらいいかなど、今回はまた違った想定で訓練していく必要があると感じました。今回の反省も踏まえ、いつ起こるかかわらない災害に備えて、毎月の訓練をしっかり行っていきたいと思えます。

(主任生活支援員)

### 静岡福祉大学との奨学金制度

本部 板倉 仁

「介護福祉士志望を支援」。二〇二二年十月二十一日の静岡新聞地方面にけっこう大きめに、学校法人静岡精華学園の杉原桂子理事長と当法人の長澤理事長との奨学金制度調印式の写真が掲載されました。

このはじめは、昨年に遡り、静岡精華学園が運営する静岡福祉大学からの介護福祉士実習生の受け入れ施設として聖ルカホームを加えていただいたときのこと。「近年は、コロナ禍により、金銭的に厳しい状態にある学生も増えており、進学を断念するようなケースもみられ、一方福祉の現場では、慢性的な人手不足の現状がある。それでは、介護福祉士を目指す学生さんにやまばと学園から奨学金を出し、将来的には介護福祉士を必要としている法人への就職につなげたらよいのでは」とのことから実現に至りました。

実現に至るまでには、静岡福祉大

学健康福祉学科の新井恵子教授、同大学と係りがあり、当法人の理事でもあるNPO法人ホッとスペース中原の佐々木炎代表、他数名の方々に労を執っていたきました。

奨学金の支給額は、一人月額三万円、最大四年間。卒業後、介護福祉士として、牧ノ原やまばと学園の施設に勤務した場合、在籍年数に応じ、返還を免除するようになります。

十月十九日に大学での調印式、二十一日に新聞に掲載、掲載当日には、所轄庁である静岡県から、財源についてなど確認とご指導もいただきました。財源については、施設費を充てることはできませんので、全額、法人への寄付金から拠出させていただきます。

月三万円とはいえず、年間三十六万円、四間で一四四万円になります。貴重なご寄附からですが、将来の法人、大きく言えば日本の福祉・介護を担う若者への応援として、御理解とご支援をお願いいたします。

(事務局長)

### みんなで楽しむレクリエーション

レクリエーション部

曾根きよ野



「今日も楽しかった〜!」  
「色々考えてくれるよね。」  
と帰りの送迎車で、ご利用者からの多くの声を耳にします。

ふどつの本では介護予防拠点として、短時間(2時間)の中で、運動・口腔機能、脳トレなどのメニューを提供しています。レクリエーションの時間は30分と限られています。①動のレク(体を動かすレク) ②静のレク(脳トレ、手先を使うなど動きの少ないもの) ③ど動きの少ないもの

に週毎に分け、様々な介護予防の要素を取り入れながら計画を立てています。その中から簡単に出来るものをご紹介します。

『触って当てよう!』中の見えな箱に物を入れ、手で触って当てるゲームですが、認知症予防に必要な五感の中の「触覚」を鍛えることにも繋がります。触った人は、中味はわかりませんが、こうだろうと思う物のヒントを出していきます。

箱の中身はぬいぐるみや、たわし、お玉、かつら、マイク...など、身近な物が多いです。ヒントではなくずばり答えしまつ方や、まるで生き物が入っているような演技をする方、見ているご利用者は様々なことを推測し、答えを出すことも難しいと感じる方もいました。

『ゴールパス』輪になってお互いの名前を呼びながら、お手玉やボールなどを渡していきます。名前を呼ぶ前に相手を一言褒めながらパス。「今日の洋服素敵だね。」「いつも優しい声かけありがとう。」「いつまでも元気で頑張ろうね。」などと声を掛け合つと、皆さんの表情は笑顔になり楽しいひと時となっています。誰でも褒められるって嬉しいことですよ。

計画する大変さがありますが、ご利用者の笑顔や感謝の言葉に励まされながら取り組んでいます。ご利用者ひとりひとりのことを思い浮かべ「あの人にはこれがいいかな。」「これにも挑戦してもらいたい。」「など、挑戦する気持ちを大切に、できることを増やしていけるよう支援していきたいと思います。

(主任支援員)

# 歩みのあと

(11月1日〜12月31日)

## ●個別のニュース

〔法人〕11月27・8・9・10・30日

監事による会計監査。11月24

30日(12月17日)監事による業務監査。11月24日。聖

隷評議員会に理事長が参加。11

月25日。法人全体防災訓練。震度6、電

気ガス水道すべて止まる想定。備品の確認や仮設

トイレ等を設置、発電機の点検等を行った。11月28日、12月8

日。第3次補正ヒアリング。11

月29日。第50回すみっこ石

コンサート(最終回)が霊南坂

教会で開催。飯さんはじめ「く

るうぶすみっこ石」の皆さんが

50年もの間コンサートを通じ、や

まばと学園を応援してくださ

りありがとうございます。コンサートは今回で最後

となりませんが、長い間本当にあ

りがとうございました。

《垂穂寮》11/14 家族参加による

ケース検討会、利用者様にご

わつて、様々な想いを共有、確認

しました。11/25 第35回オレ

ンジマソンの百メートルに利用

者1名が参加し、ご家族と一緒に

応援しました。12/10 長沢理

事長挨拶、佐々木実理事の礼拝

職員と利用者様のハンドベル、皆

で楽しいクリスマスを過ごしまし

ました。12/15 雙葉学園の皆様による

クリスマス訪問、利用者様は歌

や会話を楽しみました。

《みぎわ》11月/楽しい職場つくり

り・チームワーク形成のために、

脳み等を聴く場を設けました。

12/5にここにこしましたクリン

作戦に参加し、町を綺麗にしま

した。

《やまばと希望寮》11月より元施設

た。12/15 静岡雙葉学園の皆様が来寮されクリスマスカードを一緒に作り楽しみました。12/17 クリスマス会、クイズ等で盛り上がりました。

《わかば・もくれん》11/2 空港東側展望台の遠足。施設から広場まで歩き、広場でお弁当を食べました。(わかば) 11/26 バーベキュー開催。雨のため1階リビングにてホットプレートでバーベキューを楽しみました。(もくれん) 12/9 明るい未来検討会。勤務ダイヤの適正化について検討しました。12/10 保護者会。(わかばもくれん)

《花もも》11/4 ハロウィン仮装大会。真菜のご利用者&職員と共に楽しみました。12/17 日クリスマス会。劇団花もも「大きなカブ」を上演。観客と一緒に「うんとこしょ、どっこいしょ」と掛け声を合わせカブが抜けたときはみんなで大喜び!

《カサブランカ》12/23 クリスマス。昼食は特別メニュー。午後2時帯に作業を早目に終了しケーキを食べ、クリスマス礼拝の動画を見ました。12/30 仕事納め。昼食に年越しそば。

《希望の家》今年度通して、「チームワーク向上」を目的に行ったボッチャ大会第4回目を開催しました。4つのチームに分かれ、サッカーワールドカップにも負けない大熱戦!!!

《ふれあい》11月 藤本正博さん、木展行さん、鈴木武之さんがボランテアで天王山草刈りに協力しました。

《なのはな》11/18 帰り旅行(富士山世界遺産センター他。12/22 寄せ植え教室を行い、民生委員さんに贈呈しました。

《あさがお》12/21 毎年恒例の年賀状を書く会。年末の慰労を兼ねて思い思いの材料を使ってカップケーキを作りました。毎月

発行の行事予定表の裏面をリニューアルし、自分の予定も書き込めるデザインに変更。

《Wooやまばと》11/4 山梨へ日帰り旅行。紅葉を楽しみ、オルゴール館でオルゴール作成に挑みました。11/25 法人防災訓練。落ち着いて取り組みました。

12月/全員がお菓子の作業。クリスマスとお歳暮用のお菓子に關して、仕事を分担して、取り組みました。今度以上に、ご利用者の仕事の幅が増え、活き活きとしながら作業に取り組み姿が見られました。

《コスモス》誕生日の利用者の趣向に合わせたカードを廊下に掲示しました。

《かたくりの花》11/11 かたくりの畑でサツマイモが小さいながらもたくさん収穫できました。どうやうか食べようか皆で検討中。

《さくら》12/16 あつまりナクリスマス会。ご家族を招待し、あつまりナ内の3つの事業所がそれぞれ工夫を凝らした出し物を披露。さくら「赤鼻のトナカイ」あわつらぼうのサンタクロースを合唱。練習の成果を發揮し、ノリノリで歌いました。

《レタスクラブ》11月 牧之原公園へピクニック。みんなでおいに、サンドウィッチを作り楽しみました。

《生活支援センターやまばと》11/4 圏域重中部会医療的ケア連絡会に参加。12月/年末年始 緊急対応が必要なケースの共有と対応。強度行動障害権利擁護対策のロングセッション。調整緊急対応も行いました。

《聖ルカホーム》誕生日祝いにメイクをして記念撮影。移動販売車「とくし丸」に来ていただきみんなでお祝い。

《グレイス》11/8 ユニットで焼きそば作り、「料理出来るよお」と積極的に参加されていきました。12/26 坂部里山の会の皆さんと

「餅つき」。「腰が入っていないねえ」「手返しの水が多すぎる」と和気あいあい楽しみました。

《相寿園》11/23 忘れられない「勤労感謝の日」です。それは相寿園で初めて利用者一人のコロナ感染が確認されたからです。以後、ご利用者だけでなく職員にも感染が広がりました。

12月/ロウバイが咲いたよ」と利用者の方が教えてくれました。考えてみれば、コロナの対応で気もそぞろだったことに気がつきました。ロウバイだけでなく昨年植えた梅も蕾を膨らませ、園の回りには多くの花々が春を待っています。

《ぎんもくせい》11/15 施設運営にご協力の方々にお礼の会を開催。12/13 転倒予防教室に参加。転倒リスク等を改めて確認しました。

《真菜》さつま芋ごはんとお味噌汁を手作りし、お昼に召し上がっていたいただきました。「さつま芋がホクホクで美味しかった」と好評。

《さくらん》ご利用者の情報や状況を一覧表に、情報の共有が図れるよう様式を作成。

《シャローム》ご本人、ご家族の思いを一番に考え、その方のペースに合わせて提案。紹介・利用へと繋げた結果、ご本人の笑顔へと家族の安心が得られたと喜んで頂けました。

《ぶどうの木》11月、足でお手玉飛ばしを行い、みんなと数を競い合いました。折り紙やまほうくりでクリスマスツリーを製作。「さすき園」まで外出。おやつを注文し、服した後ジヤパンバザールでお買い物。12月 クリスマス会、合唱や合奏。「マツチ売りの少女」劇の中で2020年の振り返りをプロジェクターを通して行いました。

ボランテア活動

★活動者名(敬称略、順不同)

個人 内藤きせ、大石節子、鈴木

実習生受け入れ状況

《聖ルカホーム》

静岡福祉医療専門学校2名

11月28日〜12月9日

あとがき

☆浅井和子様は、長沢理事長と中野高校・大学が同じで、同期生。女性の弁護士が少なかった時代にこの道に進まれ、ガナナの大使という大役も果たされました。現在も弁護士として活躍しておられます。

☆表紙の写真は、ケアセンターかたくりの花のご利用者、コロナ禍の中、サンタがプレゼントを届けてくれました。

☆行動制限の緩和された初めての年末年始、コロナ感染者が増えていますので、どうか皆様も「自愛ください。」

(一)

## 寄付金状況報告

(単位:円)

	寄付金	指定寄付金	合計
4月~11月	3,585,292	0	3,585,292
12月	4,940,255	0	4,940,255
計	8,525,547	0	8,525,547

※ 2022年度より、機関紙代収入は計上していません。すべて寄附金取入として、計上しています。

勝利、松浦愛子、鈴木久美子、大川原富美子、藤本正博、鈴木展行、鈴木武之、殿村隆夫、萩原真希子、大塚小島

団体 J.A.婦人部とんぐり(ウエス切り)、日赤奉仕団(駐車場松葉の回収)、さくらん(ゴミ出し、ウエス切り)、清流館高校の学生(あつまりナクリスマス会)、社会福祉協議会(ウエス切り)、里山の会(餅つき、門松の設置)。